



杉並区アニメーション振興戦略会議



報告書

平成15年9月

杉並区は、70社を超えるアニメーション制作会社が集積している、世界有数のアニメーション産業集積地です。アニメーション産業は、日本貿易振興機構（ジェトロ）の調査によると、アメリカにおける2002年の日本製アニメーション市場規模は5200億円（推定）、これは、アメリカが同年に日本から輸入した鉄鋼製品額の3.2倍に相当する額となり、日本を代表する産業のひとつに成長しております。

杉並区は、アニメーション産業を杉並区の地場産業と位置付け、発展支援を行っています。平成14年6月には、杉並産学連携会議による「アニメーションアーカイブに関する提言」を国に対して行う一方、平成15年2月に策定した産業振興計画では、アニメーション産業の発展支援に向けた計画をまとめました。また、産学連携会議の提言を受けて「杉並アニメ資料館」を平成15年4月に開館いたしました。

今後も今回の戦略会議の提言を基に、さらなるアニメーション産業の発展に向けた支援を行っていきたいと考えております。

杉並区長
山田 宏

平成14年の杉並産学連携会議の報告書を受けて、杉並区は直ちに行動を起こし、杉並資料館設置が設置された。集中とスピードが要請されるのは、民間のビジネスだけに限らない。行政においても同様だ。会議の議論を形あるものにした杉並区の行動力を高く評価するとともに、敬意を表する次第である。

近年にわかにアニメーションの評価と関心が高まっているが、杉並区が積み重ねてきた地道な努力が、少なからず貢献していることは間違いない。しかし、高い国際競争力ゆえに追われる立場になったわが国のアニメーションには、難問が山積していることも事実である。

そのため先の杉並産学連携会議を継承し、アニメーション文化と産業を一層振興するために、今回「杉並区アニメーション振興戦略会議」が招集され、地方自治体として何ができるか、短期集中的に討議を行った。アニメーション産業をもりたてたいと思うわれわれに具体的な検討の場を与えて頂いた杉並区と、アニメーションに深い情熱を注ぐ山田区長に、委員を代表して感謝を表したいと思う。本報告書が杉並区ならびにわが国のアニメーションの振興に寄与できることを願っている。

杉並区アニメーション
振興戦略会議座長
浜野 保樹

目次

(巻頭) 報告書によせて

1	はじめに～杉並区アニメーション振興戦略会議の位置づけ
2	委員一覧・会議スケジュール
3	第1章 提言のまとめ
4	第2章 これまでの経緯
7	第3章 背景
9	第4章 提言1 / 杉並アニメ資料館の拡充
12	第5章 提言2 / アニメーション・センターの杉並への誘致
13	第6章 提言3 / アニメーションをもとにした観光
16	参考資料 / 海外の事例

目的

杉並区では、今年2月に産業振興計画を策定し、アニメーション産業の発展支援に向けた基本計画をまとめた。この計画の着実な推進と「アニメーションアーカイブに関する提言」(平成14年6月)の具体化への方策を示すため、杉並区アニメーション振興戦略会議を設置し、今年9月に提言を行った。

戦略会議で検討された主なテーマ

1) アニメーション・センターの杉並区への誘致

日本アニメーションの産業支援機能を有するとともに、シンボルとなる中核施設の誘致に向けた方策の具体化を図る。

<施設の機能>

アーカイブ	(アニメーション作品などを収録したライブラリー)
シネマテーク	(作品を最善の環境で視聴できる施設)
ミュージアム	(アニメーションを楽しく理解し紹介する施設)
人材育成機関	(アニメーター育成。高等教育機関との連携と支援)
研究所	(アニメーションの研究や資料修復を行う施設)

2) デジタル化支援となる基盤整備

中小制作会社のアニメーション制作進行業務を電子化し、ネットワークを使った作業の受発注やデータ転送を行う総合システム化を支援し、日本アニメーションの国際競争力の維持向上を図るための、基盤整備の方策の具体化を図る。

(各社の制作環境の相違を超えて、接続容易で、かつデータ・フォーマットをサーバー側で認識でき、ポストプロダクションを簡素化するサーバーの開発など)

3) アニメーション観光資源の開発

集積地の利点を活かしたアニメ観光資源の開発。

4) アニメーション・ポータルサイト

日本のアニメーションを総合的に海外に紹介するポータルサイトの開設に向けた支援策。

委員一覧

氏名	役職名
座長	
浜野保樹	東京大学大学院 助教授
委員 (50音順/敬称略)	
内山博子	女子美術大学 助教授
掛須秀一	プロデューサー (有限会社ジェイ・フィルム代表取締役)
黒木衛	杉並アニメ振興協議会副会長 (株式会社トランス・アーツ代表取締役)
鷲巢政安	株式会社エイケン 第2営業部長
大地丙太郎	アニメーション監督
立石雅夫	女子美術大学 学長
田中秀範	株式会社電通 プロジェクト・プロデュース局 局次長
広実郁郎	経済産業省商務情報政策局 文化情報関連産業課長
松谷孝征	日本動画協会理事長 (株式会社手塚プロダクション代表取締役社長)
吉井孝幸	株式会社サンライズ代表取締役社長
四居誠	杉並区区民生活部長

会議スケジュール

平成15年 /

- 7月28日(月) 第1回戦略会議開催 (杉並区役所 中棟4階 理事者控室)
 - 8月26日(火) 第2回戦略会議開催 (杉並区役所 西棟6階 第5-6会議室)
 - 9月29日(月) 第3回戦略会議開催 (杉並区役所 西棟6階 第5-6会議室)
- 区長へ提言

第1章 提言のまとめ

杉並区アニメーション振興戦略会議は杉並区に、下記の3つの目標を達成することを提案する。

- (1) アニメーション文化と産業の振興
- (2) ジャパン・ブランドとしての杉並ブランドの確立
- (3) アニメーションによる地域振興

これらの目標達成のために、以下のことに配慮すべきである。

- (1) 自治体にしかできないことに限定する。
- (2) 他機関との連携を模索する。杉並区の努力などもあって、とみに関心が高くなり、近隣自治体、東京都、国でも、さまざまなアニメーション振興策をやつぎばやに打ち出しているが、それらと競合するのではなく、相乗効果を招くような連携協力を模索するように努力しなければならない。
- (3) 投下できる資源には制約があるため、優先順位を決めて、費用対効果を向上させる努力を行う。

アニメーション文化と産業の振興、ジャパン・ブランドとしての杉並ブランドの確立、そしてアニメーションによる地域振興を実現するために、以下の3つの事業を行うべきである。

- (1) 杉並アニメ資料館の拡充
- (2) アニメーション・センターの杉並への誘致
- (3) アニメーションをもとにした観光

第2章 これまでの経緯

報告書『アニメーションアーカイブに関する提言』

平成14年度に杉並区はわが国が誇るアニメーション産業の中核地として、アニメーション文化と産業の一層の振興をはかるため、杉並産学連携会議を開催し、平成14年6月に報告書『アニメーションアーカイブに関する提言』をとりまとめた。

この提言は、杉並区の地場産業で、かつ東京に集中的に集積されたアニメーション産業がかかえる問題を克服し、アニメーション文化の一層の振興をはかるために、自治体である杉並区が、(1)公がやらなければならないことと、(2)限られた資源の集中的な活用、さらに(3)今この時期にやっておかななければならないこと、に限定して提案を行ったものである。

以上のようなことから、下記の5つの機能を有したアニメーション・センターの設置が望ましいものの、まずはデジタル化の進行によって散逸の危機にあるセルによる制作の資材や資料、制作のための道具や作品を、早急に収集するアーカイブの設置を提言したものである。

アニメーション・センターの5つの機能とは以下のものである。

- アーカイブ（アニメーション作品や制作に関わる資料や道具を収集した施設）
- シネマテーク（作品を最善の環境で視聴できる施設）
- ミュージアム（アニメーションの歴史や制作方法についての啓発施設）
- 人材育成機関（大学などの高等教育機関、高校など）
- 研究所（アニメーション制作の研究や修復を行う施設）

杉並にこそ、過去のアニメ作品や制作関連資料などを体系的に収集保存し、希望者が閲覧できるようなアニメーションアーカイブの公的施設の設立が必要であるという、この提言に答えて、杉並区は以下のような計画を実施した。杉並区が提言を受けて、早急に行動に移ったことについては、一刻も早く対処しなければならない事象であったため、高く評価したい。

- (1) 杉並アニメ資料館
- (2) 資料収集
- (3) 開館記念企画展「『人狼 JIN-ROH』～究極のセルアニメの世界」
- (4) 産業振興シンポジウム「アニメーション技術の伝承と保存」
- (5) DVD「セル・アニメーションの制作工程の記録」の制作

具体的には以下の通りである。

(1) 杉並アニメ資料館

平成15年4月1日に、日本のアニメーション文化に貢献してきた機材や資材等を、常設展示するわが国初の施設として、「杉並アニメ資料館」が杉並会館3階に開館した。



(2) 資料収集

アニメーション制作のデジタル化が進み、セルによる制作機材や道具が廃棄されているため、セルを描くための机やアニメーション・スタンドなど機材や道具を収集している。

(3) 開館記念企画展「『人狼 JIN-ROH』～究極のセルアニメの世界」

セル・アニメーション技術の最高峰といわれる映画『人狼 JIN-ROH』の制作資料の展示を、プロダクション I G の協力を得て、平成15年4月1日から13日まで杉並アニメ資料館で行った。

(4) 産業振興シンポジウム「アニメーション技術の伝承と保存」

杉並区のセシオン杉並で開催された「アニメーションフェスティバル2002 in 杉並」の第一日目である平成14年11月30日に、報告書『アニメーションアーカイブに関する提言』を受けて、「アニメーション技術の伝承と保存」をテーマにシンポジウムが行われた。

日本のアニメ作品やその制作技術をどう保存・伝承していくか、アニメーションのアーカイブの必要性と世界の状況について、実際に制作現場で働いているクリエイターたちが自ら語り合うというもの。出演者は次の通りである。

司会：浜野保樹 東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授
石川光久 (株)プロダクションIG代表取締役
秋山雅和 株式会社IMAGICA映画本部兼テレビ本部部長
幾原邦彦 アニメーション監督

(5) DVD「セル・アニメーションの制作工程の記録」の制作

セル・アニメーションの制作工程の映像記録を残すため、杉並区役所経済労働課、スタジオ・アロ、東京大学大学院新領域創成科学研究科メディア環境学研究室からなる企画制作委員会を発足させ、監修を高畑勲、大塚康生の両氏に依頼した。

財団法人デジタルコンテンツ協会の平成14年度デジタルアーカイブ構想振興事業『地域産業関連技術等の高精細デジタル映像によるアーカイブソフト制作』日本小型自動車振興会補助金交付事業の支援、プロダクションIGの全面的な協力を得て、セル・アニメーション技術の頂点を極めたと言われる『人狼JIN-ROH』の制作工程を再現し、高画質のハイビジョン映像で記録した。

映像記録だけでなく、沖浦啓之監督をはじめとする多数のスタッフの、セル・アニメーション制作についてのインタビューも納められている。



第一回企画制作委員会

まとめ

『アニメーションアーカイブに関する提言』については、資料館の設置、収集資料だけでなく、映像資料の作成や啓発活動など、多方面から高い評価を得て、所期の目的を達したといえよう。

これらの実績を踏まえて「杉並区アニメーション振興戦略会議」は開催された。

(1) アニメーション文化と産業の振興

21世紀は文化の時代と言われる。わが国が誇る文化資源の中で最も国際競争力が高いものがアニメーションであり、そのふるさととも言えるのが杉並である。

日本製アニメーションを意味するANIMEは世界語となり、外国の子どもたちにとっては、アニメーションは、「最初の日本体験」となっている。さらにアニメーションによって日本語を学ぼうとしている外国人が増加している。

このように、文化として日本のアニメーションは高い評価を得ている。国力としてGDPだけでなく、国家のカッコよさを示すGNC（Gross National Cool）も重要であると提唱するDouglas McGrayは、世界で最もGNCが高いのは日本であるとし、その理由として、わが国のポップカルチャー、つまり漫画やアニメーションの魅力を挙げている。

また、わが国の経済が低迷している中、アニメーションは国際競争力を持ち、世界で大きな市場をもっている。最も大きな市場であるアメリカでの日本製アニメーション関連ビジネスの市場規模は小売ベースで5231億円（2002年）と推定されており、日本から米国への鉄鋼輸出額の3.2倍に相当する。

しかし杉並産学連携会議報告書『アニメーションアーカイブに関する提言』で述べられているように、文化財、文化資源としてアニメーションの収集保存は、杉並アニメ資料館ができるまで、どこにも重要視されていなかったし、産業としても、デジタル化の立ち後れ、人材育成、資金調達制度の不備など、問題も山積している。

工業製品の消費の低迷から、各国ではコンテンツ産業を戦略的産業と位置づけている。韓国政府は世界市場の5%占有を目途とし、シンガポール政府はGDPに占めるコンテンツの割合を1.56%から3%に向上させようとしている。ちなみに日本は2%で、アメリカは5.2%である。

世界市場の約半数をもち、コンテンツで圧倒的な強さをもつアメリカ以外で、アメリカを凌ぐほどの国際競争力を保持しているのは、日本のアニメーションとゲームだけである。しかしゲームは最近、アメリカの攻勢や韓国でのオンラインゲームの普及などによってシェアを大きく減少させている。また各国は日本の成功例から、アニメーションを戦力的産業と位置づけ、手厚い支援を開始している。

このようなことから、杉並区は杉並の地場産業としてのアニメーションの文化と産業の振興を、他機関と連携して行うべきである。

(2) ジャパン・ブランドとしての杉並ブランドの確立

杉並は長らく東京の住宅都市というイメージがあり、東京以外からはイメージが希薄であったことは否めない事実である。しかし最近では、アニメーションへの関心の高さや、杉並区の「アニメの杜すぎなみ構想」による様々な努力によって、杉並は「アニメのまち」というイメージが形成されつつあり、それも海外にまで及ぼうとしている。

児童だけでなく成人にも親しまれるアニメーションは、杉並区のブランディングの資源として極めて重要なものであり、住民の地域へのアイデンティティや郷土愛を育むためにも貴重な資源であるため、杉並区は一層アニメーションを杉並ブランドとして定着、普及させる努力を行うべきである。ハリウッドのように世界中で「SUGINAMIといえばアニメーション」を生起し、「アニメーションといえばSUGINAMI」を連想するようになれば、日本のブランディングともなる。

(3) アニメーションによる地域振興

1920年代、アメリカ映画が上映されると、それに引き続いてアメリカ製品の売り上げが伸びることから、米商務省は「貿易は映画に続く (Trade follows film)」の標語のもと、アメリカ映画の海外輸出を支援していた。

アニメーションの各方面での高い評価は、間接的に杉並ブランドを向上させていることでもあるため、杉並区はアニメーション産業振興だけでなく、アニメーションを地域振興に積極的に活用する努力を行うべきである。

「Trade follows films (貿易は映画に続く)」という1920年代の標語が示すようにアメリカでは貿易は映画に続いたが、21世紀「杉並の地域振興はアニメに続く」

『アニメーションアーカイブに関する提言』を受けて平成15年4月1日に開館した「杉並アニメ資料館」は、わが国初のアニメーションに関する常設展示施設である。公的機関として設置されたこともあり、内外からの期待も大きい。展示スペースが約80m²と狭小の上、展示室のみのスペースしかなく、収集保管庫（25m²）は既に満杯状態となるなど、展示・収集・保管のいずれにも十分な施設とは言いがたい状況である。そのため、杉並アニメ資料館の拡充が求められる。

拡充については、全国的なアニメーションセンターを杉並区に誘致するための、先行投資的な取り組みに結びつけることを提言する。

（１）拡充施設の特徴

ジブリ美術館が多くの世代に対して、展示内容での楽しさ、華やかさ、満足感を商業ベースで達成させていることを認識しつつ、これとの対比で、杉並アニメ資料館は、自らがアニメーションの製作過程に擬似的に参加できる仕組みを中心とする。また、展示内容も、アニメーション産業集積地の歴史を踏まえて、杉並区中心に、区内外の日本アニメ全般の俯瞰と発見ができる内容とし、子供から大人まで来客者に一定の満足感を与えられる内容とする。

拡充内容例

- ・ 彩色、動画等アニメ制作行程の実演及び体験コーナー
- ・ 来館者が直接触れて操作できる参加体験型の展示
（例）ゾートロープ、驚き盤など
- ・ フィルム視聴（アニメ制作工程の記録、アニメ作品）
- ・ アニメフィルム等資料収集・整理・保存・展示・貸出
- ・ アニメ作品目録の作成
- ・ クリエーターの映像ライブラリーの作成
- ・ 杉並区とその周辺で作られたアニメ作品表示
- ・ 杉並区のアニメ関係者とその作品

（２）施設運営の委託

施設の特質を生かした運営にあたっては、アニメーション産業・文化に理解があり、著作権調整やアニメーション事業の振興に精通している団体に委託することが望ましい。

(3) 施設の拡充例

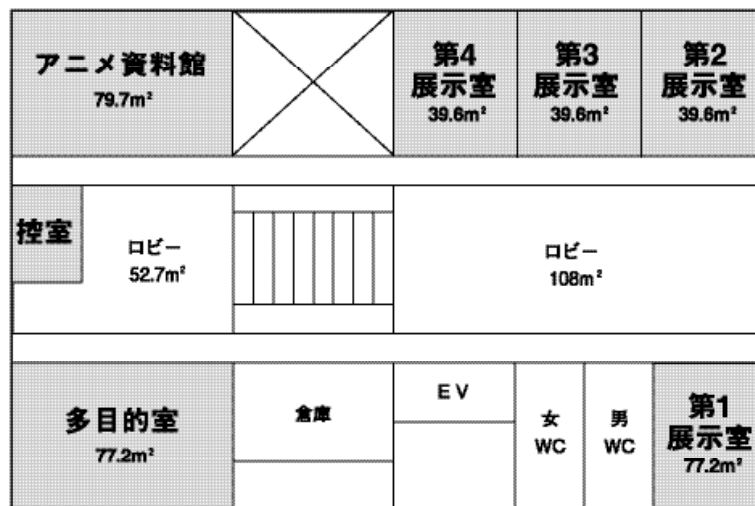
現行の常設展示室（約80 m²）のほか、現在絵画等の展示室として一般貸出している第1展示室（約40m²）・第2展示室（約40m²）・第3展示室（約40m²）・第4展示室（約40m²）・多目的室（約80m²）ロビーを含めて延べ約500m²に拡充するとともに、4階を委託運営団体の事務室、アーカイブ機能を重視した収集資料の整理室などに充てる。

(4) 来館者の開拓

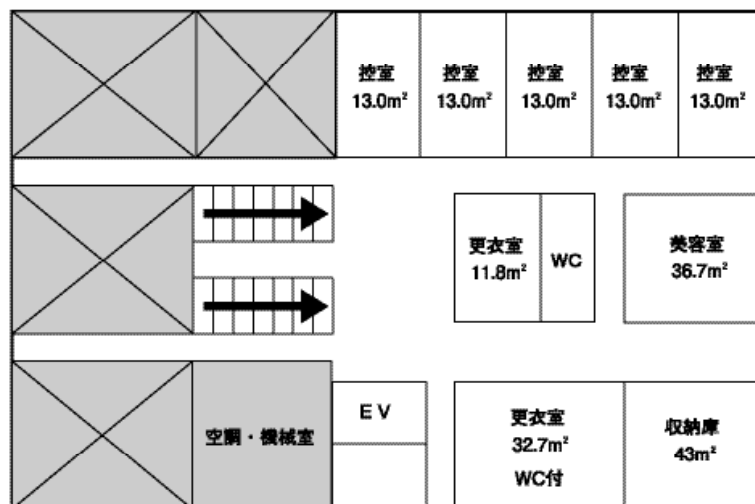
一般来館者の他、下記の来館者の増加を見込む戦略を検討する。

- ・ 旅行会社主催旅行のルートに乗せ、国内外観光客を誘致
- ・ 区内外小中学校の土曜日学校等の課外学習
- ・ アニメマニアの取り込み

現在の資料館
< 3階平面図 >

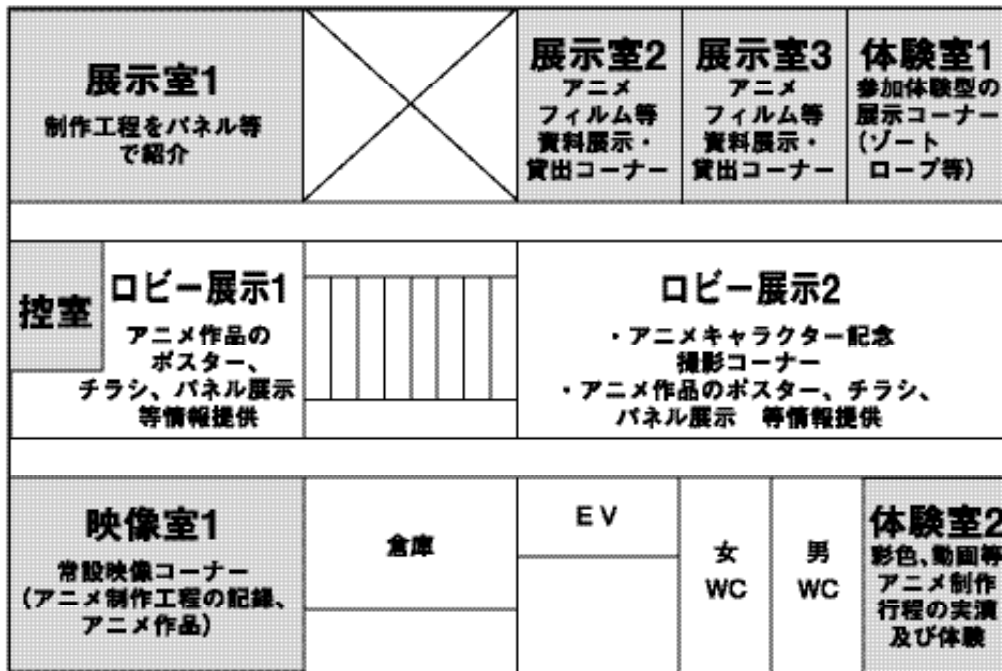


< 4階平面図 >

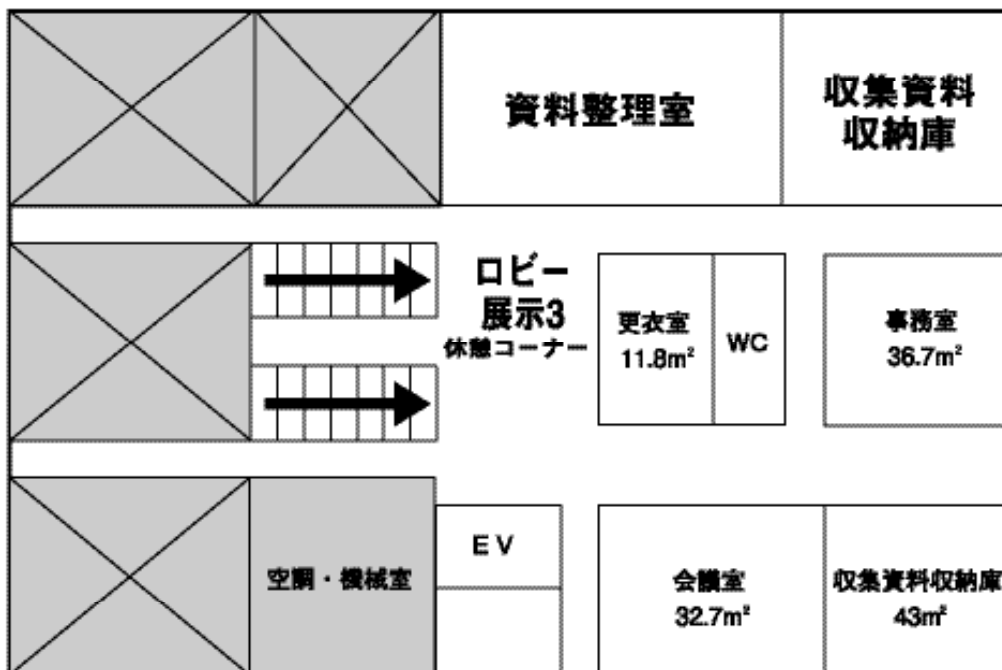


拡充後の資料館 3 階・4 階の平面図（例）

< 3 階平面図 約500m² > 3 階は主に、展示・体験機能を中心とする。



< 4 階平面図 約330m² > 4 階は主に、アーカイブ機能を中心とする。



杉並区の努力などもあって、アニメーションへの関心がとみに高くなり、近隣自治体、東京都、国でも、さまざまなアニメーション振興策をやつぎばやに打ち出している。杉並区としては、それらと競合するのではなく、相乗効果のある連携協力を模索するように努力しなければならない。

具体的には、国レベルでアニメーション振興に関するものとして、以下のようなものがある。

平成12年 文化庁「文化芸術振興基本法」
平成15年 経済産業省「コンテンツ産業国際戦略研究会」
平成15年 総務省「情報通信ソフト懇談会」
平成15年 内閣府「知財戦略本部コンテンツ専門調査会」

これらには、人材育成の面からの振興策の提案がなされており、杉並区が目指しているアニメーション・センター機能と共通する部分が極めて多い。すでにフランスには、アングレーム市に国立アニメーション・映像センターがあり、韓国にはソウル・アニメーション・センターがあり、アニメーション振興に大きな役割を果たしている。

そのため、杉並アニメ資料館を拡充し、その実績を元にして全国的なアニメーション・センターの誘致を国に働きかけることを提言する。しかし投下できる資源には制約があるため、以下のことを十分配慮しなければならない。

- ・ 区有地等の土地の提供など、現有資源の有効利用を行う。
- ・ 杉並アニメ資料館等で実績作りに一層努力する。
- ・ 国や他自治体との情報交換など、連携を密にする。

平成15年1月小泉内閣総理大臣は第156回国会施政方針演説において、日本を訪れる外国人旅行者を平成22年に倍増させることを目標として打ち出した。それを受けて観光立国懇談会が設置され、同年4月『観光立国懇談会報告書：住んでよし、訪れてよしの国づくり』が発表された。その報告書には以下のように書かれている。

「日本では、東京国際映画祭も最近では一時の熱気はないし、世界の若者があこがれるアニメの製作拠点があっても、それに世界の人々を呼び込む、優れた企画がない」

杉並区は、この批判に応えるためにもアニメーション観光の成功例となり、モデルケースとならなければならない。

観光は21世紀の重要な産業であり、アニメのふるさとというかけがえのない文化資源を持つ杉並区は、それを有効活用して、杉並のブランディングを行い、地域振興にもつなげる努力を行うことを提言する。「SUGINAMI」といえばアニメを連想し、杉並ブランドが世界で認知されるような以下の試みを提案する。

- 1．シンボルとなるモニュメントの設置
- 2．観光ルートの整備
- 3．アニメーションフェスティバルの拡充
- 4．アニメ歴史遺産
- 5．杉並アニメ・ポータルサイトの設置
- 6．商店街との連携

(1) シンボルとなるモニュメントの設置

旅行者は、観光地を訪れたことを後で確認できるシンボルの記念写真を、必ずといって撮りたがる。「ハリウッド」のサインの例が示すように、それが人工的で単純なものであっても、旅行者には大きな意味を持つ。

杉並区内に「アニメのふるさと」を訪れたことを確認できるシンボルとしてのモニュメントを設置すれば、大きな観光資源になる。

設置にあたっては、デザインの全国的コンペなどを行い、多くの耳目を集めるように配慮し、そのモニュメントを商店街にマークなどとして使えるように配慮する。

(2) 観光ルート整備

「アニメーション制作会社を見学したい」「アニメーションを作っているところを実際に見たい」等の需要は国内外を問わず根強く、今年に入って見学希望の問合せが急増している。4月以降だけでも、産業振興担当へHIS(アメリカ人ツアー)、JTB(アメリカ、オーストラリア人ツアー)、JAL(ドイツ人ツアー)などの旅行会社をはじめとして、中華人民共和国の新聞記者クラブ、ブルネイ国営テレビ・ラジオ取材チームなどの外国人団体や、身近なところでは、区内外の小学校の土曜日の校外学習として活用したいといったものまで、各種様々な申し入れがきている。

こうした見学希望の需要は今後も増加が見込まれるため、新たな有効な観光資源として「杉並アニメ資料館」の見学と連動させた上、三鷹の「ジブリ美術館」、中野ブロードウェイのアニメ店舗群のショッピングと東京西部中央線沿線のアニメーション観光ルートをつくり新たな観光資源として整備していく。そして、区内の観光資源としてアニメ資料館を充実させ、区内アニメーション制作会社の見学などと連動させた観光ルートの整備を図り、アニメのまち杉並区のイメージアップ、情報発信力の強化と観光客集客等による経済効果を創出する。

< 観光ルート例 >

ジブリ美術館の見学

杉並アニメ資料館見学

派生ルートとして 区内アニメーション制作会社見学

中野ブロードウェイ(まんだらけ等)でお買い物

スタジオ見学のアニメーション制作会社の受け入れ態勢について

区内にある大手のアニメーション制作会社(サンライズ・マッドハウス等)には、現在も専門学校やマニアのグループ等から個別に制作現場の見学依頼があり、少人数に限り、また内容によって個別に対応をしている。しかし、このように対応できるアニメーション制作会社は限られており、また対応している制作会社でも、施設面や対応する職員の手当てなど、見学者を受け入れる態勢が整っていない。

今後、ルート化して見学者を恒常的に受け入れていくための施設面整備の他、制作会社にとってのメリット（金銭的・会社PR）を構築していく。

（３）アニメーションフェスティバルの拡充

杉並区は毎年、区民に対するアニメーション啓発事業としてアニメーションフェスティバルを開催しているが、それを国内外から広く訪問者を集客できるイベントとして拡充することを提言する。

アニメーションのイベントとしては東京都が主催し、アニメーション業界で出展する「東京国際アニメフェア」という大型イベントがあるものの、漫画の「コミケ」に類する、ファンや作家志望の若者が主体的に参加できるイベントは存在しない。コミケは毎回40万人を動員するため、アニメ版コミケが成立すれば、大きな観光資源となる。

そのため、杉並区のアニメーションフェスティバルをアニメの「コミケ」たるものにすることが可能かどうか、早急に検討すべきである。

（４）アニメ歴史遺産

杉並区内にあったスタジオや、そこで作られた名作を示す石版などを現地に設置し、観光ルートに組み入れ「アニメ史跡」とする。

（５）杉並アニメ・ポータルサイトの設置

観光や地元のアニメ作品の認知向上のため、日本語と英語による杉並アニメ・ポータルサイトの設置を提言する。設置に際しては、杉並アニメ振興協議会、関連会社、商店街から情報の提供を受けるとともに、機材等については地元の情報・IT企業からの協力を得るようにする。

（６）商店街との連携

商店街の活性化のために、アニメを活用する。制作会社の協力のもと、「中心市街等商店街・商業集積地活性化施設等整備事業」などの国の制度を利用し、商店街活性化事業を行う。

ソウル・アニメーション・センター

<http://www.ani.seoul.kr>

韓国のソウル市がアニメーション産業育成のために設立した機関で、世界中のアニメーションが収集され、展示されている。アニメーション・ビジネスの研修やセミナーを頻繁に開催している。

< 紹介文からの抜粋 >

ここアニメーションセンターの映像試聴室にない資料といえば韓国では求められない資料だと思っても過言ではなさそうだ。特に本記者が直接視聴した結果、この最大の長所は、手に入りにくい有名な短編アニメーションが原作そのまま確保されているという事だ。その他に子供向け教育映像資料や珍しいアニメーション雑誌を見ることがもできる。座席は全9つだがあまりがっかりする必要はない。映像機一台で2人で見られるし、また3～4人で見ることがもできる。ソファのある結構大きな映像機もあるからだ。

アニメーションセンター1階にある映像試聴室で資料を選んだ後、デスクにある職員に身分証を提示すれば、すぐ資料を鑑賞することができる。配られたヘッドホンを利用して音を聞くが、作品鑑賞にはなんらの問題なく、楽しく鑑賞可能だ。座席がいっぱいだと言っても30分くらい待てば充分に見られると思う。漫画の家がそうであるようにアニメーションセンターでも資料閲覧には制限がなく、一日中資料を鑑賞しても統制がない。これも歓迎できる事だ。

**杉並区アニメーション
振興戦略会議 報告書**

平成15年9月

発行：平成15年11月

事務局：杉並区生活部経済勤労課

〒166-8570

杉並区阿佐谷南1-15-1

電話 03-3312-2111（代）

登録印刷物番号

15 - 0096

